
田中太郎君の恋路

にっし～

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

田中太郎君の恋路

【Nコード】

N4243T

【作者名】

にっし

【あらすじ】

僕、田中太郎。今年の春から高校一年生だ。名前が地味すぎるためか、あまり会話をせずに小説を読むのが好きだ。

しかし僕に好きな人ができた。彼女の名前は、海風爽子。うみかぜさわこ名前からして爽やかだが、僕と比べ物にならないほどすごい爽やかだ。はたして僕の恋路はどうなるのか！？（作者も知りません（笑））

プロローグ（前書き）

はじめまして！！にっしーです！！初めての投稿に少し緊張します（笑）

初投稿作品で、主人公が自分と真逆な性格を書くのですが、できるだけ面白くしますので、ご期待を！！

更新は、月一になる可能性がありますのでご了承ください！

文法の間違い、誤字、脱字があるかもしれませんが、最後までお付き合いください。

プロローグ

「キンコンカンコン」この学校に来て、最初のチャイムが鳴った。

「よし、みんな揃ったか？ 改めて自己紹介をする。自分は、西城健二。じょうけんじこれから担任になるが、高校生活で悩み事があったら、すぐに相談してくれ。

30代半ばの担任、結城のホームルームが終わり、生徒たちがそれぞれ雑談を始めた。

ぼくは、田中太郎。たなかたろう名前のせいなのか、人と話すより小説を読んでいる方がすきだ。

そんな僕に、今後の人生を左右する一人の少女があらわれた。

学級委員長って女子の方が似合うのかなあ？（前書き）

お詫び…主人公の学校などの基本情報を言い忘れていましたので、紹介します。

主人公、太郎の通う学校は、県立松波高校略して松高クラスは、1年B組です。クラスメートは、またあとで本文で紹介します。よろしくおねがいします。

学級委員長って女子の方が似合うのかなあ？

今日は、1日中ホームルームをするだけです。

「委員会が決まったからつぎは、学級委員決めをするぞ。」と30代半ばの「って何嘘言ってるんだよ！！俺はまだピチピチ(?)の29歳じゃあこの作者あ！！」はい、でもそんなに怒ったらってあゝあ、1人女子が涙目になっちゃったじゃん。「えっ？あつごめん。本当にごめん。」

なんだかんだあって皆さん落ち着いた様子です。「じゃあまず委員長からだな。って言ってもそんな緊張しなくていいから。集会でみんなを並ばせたり、評議会に出席するぐらいだから。じゃあ我こそはというやついるか？」

.....

やっぱり立候補するいるわけが「はい！」っていた！！しかも担任も結構びっくりしてるし！！「じゃあ海風にお願いしよう。」「はい！」と爽やかに返事をした。うん、女子高校生は、こんな爽やかなのがいいよね！うん

「じゃあつぎは、副委員長だな。誰がいるか」

.....

やっぱり2度も起きるわけないよなあんなの。ってここでまたフエイントをかけるところだろう！！なんだこの空気を読めないクラ「って何人のクラスの悪口言ってるんだあこの作者あ！！」はい、ごめんなさい。

「じゃあ誰もいないんだな。じゃあ俺が決めるぞ。じゃあ田中。お前にしよう。お前はなんの委員会にも入ってないからな。どうだ、田中？」「はい、わかりました。」田中が静かに答えた。

「よし、つぎは、書記だな・・・。」とまあんだかんで全員のポストがきまり、「じゃあ、海風と田中は放課後ちよつと残って。」「「はい」」と言って今日の授業が終わった。

「女子といきなり放課後に残るなんて！！しかも結構可愛いじゃん！！」といつも暗いが、この時だけすごい興奮していた。まあ、心の中だけけど・・・「やったじゃん！！いきなりこういう展開っ！！」あっそうそうこの暗い太郎に必要以上に絡んでいるのは、一斉藤結城。幼稚園のころからの幼馴染。まあ小中は、住所の関係で別々だけど・・・。「うるせえよ。」太郎もこいつとだったら普通に話せる。けど、本当にアニメや漫画のような事が起こるのか・・・作者も期待してます。

学級委員長って女子の方が似合うのかなあ？（後書き）

主人公がヒロインより先に出て来ないのは、自分でも疑問です（笑）
。それでは、また会いましょう。

男子十女子十二人つきり!!? (前書き)

名前について友達からクレームが来たので改名します。

西城⇒西城健二
斉藤⇒斉藤結城

よろしくお願いします。

男子十女子十二人つきり!!?

「あとどんだけ残ってんだよ…」太郎が独り言をつぶやいていた。そんなにつぶやきたいなら○イッターでつぶやいとけよ。「別にいいだろ」太郎が作者に答えた。副委員長の太郎は委員長の海風爽子うみかぜさわこと担任に頼まれて掲示物を貼っていた。「えーっと自己紹介カードってどこでしたっけ?」「後ろの黒板の上のとこだよ。あと、クラスメートなんだからタメ口にしてよ。」「あっ、はい。海風さん」「爽子でいいよ」爽子がクスって笑って優しく言った。やべえ、めっちゃカワイイ!!太郎は、心の中で大きく叫んだ。

そんなことを考えていたら誰かがやってきた。「やべえ、忘れ物しちまった。」結城だった。「あり?2人とも何してんだ?」「朝先生から聞いてないのか?俺たちに放課後残れって言ってたじゃん」太郎が教えた。「へへ。ところでちよつと太郎、こっちきて。」と結城が太郎を教室の外へ連れてった。「何だよ?」太郎が結城に問いかけた。「おい、お前今まで何していたんだ?」結城が疑っているような目で太郎を見ていた。「だーからー、先生に呼び出されて今まで掲示物を張っていたんだよ。」太郎が呆れたように結城に答えた。「とか言って、実はあの爽子さんという楽しい事をしていたんだろ?」また結城が疑っているような目で太郎を見ていた。

「なんだよ」太郎も対抗するように見つめていた。「まさかあの太郎があんな可愛いやつといちゃいちゃやるなんて!」「んなわけねーだろーがあ!!」太郎が久しぶりに叫んだ。「だよなー。お前がそんなことをしていたら俺ショックでぶっ倒れるよ。」「余計なお世話だ。」「また太郎が呆れたように言った。「じゃあ俺は用事があるから、じゃあな」「ああ」よし、また再開するか。「きやあああっ!!!」なにやら教室で叫び声が聞こえた。あの声は爽子だ。

「大丈夫か?」太郎が駆け足で近寄った。「大丈夫」爽子が返事をした。どうやら大丈夫そうだ。しかし「うわあああ!?!」太郎が叫

んだ。よく見たら爽子のスカートの中が見えかけていた。「ゴゴゴ
ゴメン!!」「え?何が?」どうやら彼女には聞こえていないらしい。
「いやっ、なんでもない」太郎が濁して終わらせた。「それじ
ゃあ早く終わらせよっか」爽子が言った。「ああ」太郎が答えた。

太郎と愉快な仲間たち（前書き）

久しぶりです　にっしーです。

定期テストが終わり、落ち着いたのでまた投稿します。

これから夏休みなので、もう少しペースを上げたいです。

太郎と愉快な仲間たち

次の日、太郎はいつもの通学路を歩いていた。

「ふあゝあ、ねみゝ」

すごく眠そうだな。

「ん？ ああ、昨日夜遅くまでゲームしてたからな。」
何時に寝た？

「2時ぐらいに寝た」

って大丈夫なのか？

「まあ大丈夫」

ならいいけど。

朝のSHR「今日は平常授業だ。あと、海風と田中は放課後に残ってくれ。いつもゴメンな。」担任の西城が言った「「大丈夫です」」
2人が答えた。

授業中「このxにここに書いてある公式を当てはめて解くと・・・」
「数学教師の講義中。主人公の太郎というと、

「ZZZ」

寝てやがる。だから大丈夫かって聞いたのに。「コラァ！！！！俺の授業で居眠りなんざ良い度胸だなあ昼休みにちよっと来い」あゝあ、先生に呼び出しくらったな「うるせーよ」で、行くよな？「行くに決まってんじやん」

昼休みが終わるころ

「疲れた」

あつ太郎だ。どうだった？

「いや、先生が許してやるから俺の仕事を手伝ってプリントの整理を手伝いさせられた」

お疲れ！

「何嬉しそうに言ってるんだよ！！少しは手伝えよ！！」
ごめんごめん。

でも最近太郎が心を開いてくれてんなあ昔（この小説の前）は話しかけても無視し続けたもんなあ
読者のみなさんへの太郎と作者の物語はまた今度：

放課後「一緒にかえろ」 「帰りにゲーセンに寄らない？」生徒たちの会話が鳴り響く教室。太郎と海風は担任の西城に連れられて職員室へ行った。「君たちにはこの生徒名簿の整理をしよう。私はこれから職員会議があるからよろしくな。それじゃあこれを教室で作業してくれ」西城が会議室に向かって歩いて行った。

「じゃあ早く終わらせちゃうか」海風が言った。「おう」太郎がそれに答えた。

まずはっと、生徒番号01、吉田高貴^{よしだこうき} 彼はいたって普通の青年にしか見えなかったなあどれどれ、中学時代には水泳部に入っているのか：じゃあ高校も水泳部かな？

次、生徒番号02、五十嵐有希^{いがらしゆき} 彼女は割と静かだったなあ、中学時代は生徒会なんて委員長に立候補しなかったのかふしぎだな。

まあいいや。少し飛ばして次、生徒番号10、小林大志^{こはやしたいし} 彼は中学時代にイジメの経験有か：少し優しく接しないと

また少し飛ばして次、生徒番号15、岡田健太^{おかだけんた} 彼は喧嘩っ早い性格のようだ。あまり接しないほうがいいかもな。

次、生徒番号20、菊池優子^{きくちゆうこ} 彼女は明るく活発な性格らしく、中学時代にはみんなに尊敬されていたらしい。

次、生徒番号30、安田健吾^{やすだけんご} 彼は割と普通の男子だな。

……………てか、このクラスってキャラ濃すぎない？

太郎と愉快的仲間たち（後書き）

やっとだゝ やつと登場人物が1通り紹介できたゝ
それではさようならゝ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4243t/>

田中太郎君の恋路

2011年10月9日02時43分発行